

研究

子育て期母親役割尺度の作成

寺藺さおり¹⁾, 山口 桂子²⁾

〔論文要旨〕

本研究の目的は、子育て期母親役割尺度を作成し、信頼性と妥当性を検討することである。調査項目について因子分析を行った結果、第Ⅰ因子「子どもの発達を促すかかわり」(17項目, Cronbach's $\alpha = .934$), 第Ⅱ因子「基本的生活習慣の確立に向けての援助」(11項目, Cronbach's $\alpha = .905$), 第Ⅲ因子「社会生活に向けての教育」(4項目, Cronbach's $\alpha = .783$), 第Ⅳ因子「子育てや教育に関する費用の管理」(3項目, Cronbach's $\alpha = .770$)を抽出した。また、35項目全体のCronbachの α 係数は $\alpha = .949$ と全体の内的整合性が確認された。さらに、子育て期母親役割尺度のいずれの下位尺度との間にも母親役割達成感尺度と正の相関が認められ、妥当性が確認された。本研究の子育て期母親役割尺度では子どもの世話や発達を促すかかわりといった直接的なかかわりのみならず、子どもの生活費の管理といった間接的なかかわりも含まれることが確認された。これらの結果から、本研究の尺度は総合的な母親役割の質の評価に有用であると考えられる。

Key words : 母親役割, 子育て期, 子育て費の管理, 信頼性と妥当性

I. はじめに

子育て期の母親は、母親自身や重要な他者の影響を受け、自分自身を評価しながら母親役割を獲得し、アイデンティティを構築していくプロセスにある¹⁾。また、母親役割を肯定的に評価することは、母親の心理的な発達を促進する^{2,3)}と考えられている。それでは、これまでの研究において母親役割はどのように評価されてきたのだろうか。これまでに開発された母親役割を評価する尺度には、出産直後の母親の母親役割遂行過程における自信や満足感^{4,5)}、母親のアイデンティティとの関連を検討した母親役割意識⁶⁾、母親の多重役割⁷⁾や心理的発達^{3,4)}との関連を検討した母親役割達成感⁷⁾などの測定を試みたものがある。更に、母親役

割行動との関連を検討した母親役割満足感尺度⁸⁾は、母親役割を子どもとの関係性や世話に関する意識、満足感、および達成感の測定を目的としている。

また、母親の母親役割への心理的適応^{9,10)}や母性役割意識¹¹⁾に関しては、大日向¹²⁾の母性意識尺度(自分自身が母親であることを肯定的または否定的に捉える意識)を用いて、母親役割の受容や母親役割否定意識が測定されている。更に、就労形態から幼児をもつ母親の親役割満足感を検討した研究¹³⁾においては、親役割満足感の因子を「夫の子育てへのかかわり満足」、「親としての態度満足」、「子どもとの関係満足」と、配偶者や母親自身の子どもに対する態度や思い、子どもとの関係性に関する満足感が評価されている。

Development of the Scale for Mothers' Roles in the Childcare Period

Saori TERAZONO, Keiko YAMAGUCHI

1) 埼玉大学教育学部 (研究職)

2) 日本福祉大学看護学部 (研究職)

別刷請求先: 寺藺さおり 埼玉大学教育学部 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

Tel/Fax : 048-858-3170

[2686]

受付 14.10.14

採用 15. 4. 1

一方、船橋¹⁴⁾によると、親役割には、①扶養（子どもの生活費を稼ぎ、供給すること）、②社会化（しつけや教育、規範性が鍵になる）、③交流（遊び相手や相談相手になること、受容性が鍵になる）、④世話（食事や沐浴など身の回りのことで、子どもができないことを支援すること）が含まれる。現代の父親は、①扶養が中心で、②社会化と、③交流が少し、母親が、②社会化、③交流、④世話を中心として親役割を担っているといわれている¹⁵⁾。近年、20代および30代有配偶者の女性の就業率は年々増加傾向にあり¹⁶⁾、扶養面も母親の役割として考えられるが、依然として日本の子育て年齢女性の就業率はその前後世代と比較して低く、すべての母親が扶養面の役割を担っているとは限らない。しかし、いずれにしろ、妻が家計管理の主な担い手になっていることから¹⁷⁾、子育てにかかわる費用を管理することは、就業の有無にかかわらず共通した母親役割であることが考えられる。したがって、これまで使用されてきた母親役割の自己評価では、扶養など間接的役割をも考慮しつつ、多面的に母親役割の質を捉えることには限界がある。

以上を踏まえ、筆者らは子育て期の母親を対象に、「社会化」、「交流」、「世話」という直接的な場面に加え、「子育てや教育に関する費用の管理」という間接的な場面も想定し、子育て中の親役割の中で、母親が“母親役割”をどのように認識しているのかを調査し、「母親役割」を測定するための項目を収集・整理した¹⁸⁾。その結果をもとに、本研究では、「子育てや教育に関する費用の管理」、「社会化」、「交流」、「世話」という4つの構造を想定して子育て期母親役割尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することを目的とした。

II. 方法

1. 調査対象者および調査方法

A県の幼稚園（2園）、保育所（5ヶ所）に調査協力を依頼し、園ごとに園長、またはクラス担任が、保護者に質問紙を配布し、家庭で記入後、無記名で封をしてそれぞれの園に提出してもらったものを回収した（配布数600部）。質問紙に、回答は統計的に処理されること、調査は強制ではないことを明記した。これらの調査は2013年12月に実施した。

2. 調査項目

(1) フェイスシート

母親の年齢、職業形態、家族形態、主な家計管理者のほか、配布を依頼した幼稚園・保育所に通園中の子どもに関する情報として、子どもの年齢、出生順位、性別、就園状況の記入を求めた。

(2) 子育て期母親役割尺度

本研究に先立って行われた予備調査¹⁸⁾においては、自由記述を求める時に『お母様が思ったり考えたりする、お子様にとってふさわしい“お母さん像”について思いつくものをお書きください。また、周囲から“お母さん”として期待される行動をお書きください』と依頼した。得られた自由記述をもとに筆者らが、「子育てや教育に関する費用の管理(14項目)」、「社会化(12項目)」、「交流(10項目)」、「世話(12項目)」という4つの構造を想定して、「子育て期母親役割尺度」を作成した。「あなた自身の家事や育児についてお伺いいたします」という問いに対して、「全くあてはまらない：1点」～「よくあてはまる：5点」の5段階評定で回答を求めた。点数が高いほどその役割を遂行していることを示すものである。

(3) 母親役割達成感尺度

土肥ら⁷⁾によって作成された母親役割達成感尺度(10項目)を用いた。この尺度は母親が子どもとの人間関係や自己の成長の点で満足している程度を測定するものである。「全くあてはまらない：1点」～「よくあてはまる：5点」の5段階評定で回答を求めた。点数が高いほどその母親としての達成感が高いことを示すものである。この母親役割達成感尺度⁷⁾を用いて、本研究の「子育て期母親役割」における質問項目の妥当性を検討した。

3. 倫理的配慮

それぞれ保育所・幼稚園の代表者に対し、研究の目的および方法、調査結果の開示、研究の匿名性、研究への参加の自由と、不参加でも不利益が生じないなどを文書で説明し、対象者へ配布を依頼した。調査対象者へも同様の内容を文書で説明し、質問紙の提出をもって同意が得られたものと判断することについても明記した。なお、研究にあたって倉敷市立短期大学倫理委員会の承諾を得た。

4. 分析方法

尺度作成は以下の i ~ iii の統計的手続きにより行い、作成された尺度の信頼性・妥当性を iv・v により行った。

i. 因子分析

記述統計から分布の偏りのないことを確認したのち、因子の抽出を行うために「子育て期母親役割」に関する48項目について4因子を指定して因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行った。

ii. 因子項目の確定と命名

i の因子分析の結果からの項目の選択作業として、各因子において因子負荷量の絶対値が0.38未満だった項目を削除して再度因子分析を行い、因子項目を確定させた。また、その項目の内容から下位尺度を命名した。

iii. 「子育て期母親役割尺度」の下位尺度間の関連性の確認

ピアソンの相関係数により因子間相関を確認し、同尺度の構造について確認した。

iv. 尺度項目の信頼性の確認

最終的に得られた項目について、同一因子内の項目の内的整合性を確認するためにCronbachの α 係数を算出した。

v. 尺度項目の妥当性の検討

下位尺度ごとの得点と、母親役割達成感尺度の合計得点との間でピアソンの相関係数を求めた。

なお、分析には統計解析ソフトIBM SPSS Statistics 22を使用した。

III. 結 果

1. 調査対象者の属性

2013年12月に、0～6歳の子どもをもつ母親600名を対象に質問紙を配布し、欠損値のある回答を除く442名（回収率73.6%）を分析の対象とした。対象となる母親の年齢、職業形態、家族形態、主な家計管理者、配布を依頼した幼稚園・保育所に通園中の子どもの年齢、出生順位、性別、就園状況については表1に示した。

2. 尺度の作成

(1) 子育て期母親役割尺度項目の因子分析

全48項目それぞれの回答分布においては、天井効果や床効果が認められた項目はなかった。次に、因子数を決定するために、主因子法によるスクリープロットから4因子が適切とされた。また、項目設定段階での

表1 対象の概要

| 回答者の属性 | | 子どもの属性 | |
|---|------------|--------|------------|
| 母親の平均年齢 35.3歳 (SD4.92) (最小22～最大49歳) | | 性別 | |
| | | 男児 | 208 (47.1) |
| | | 女児 | 205 (46.4) |
| 母親の職業形態 | | 無回答 | 29 (6.6) |
| フルタイム | 110 (24.9) | 年齢 | |
| パートタイム | 140 (31.7) | 1歳未満 | 9 (2.0) |
| 専業主婦 | 165 (37.2) | 1歳 | 17 (3.8) |
| 無回答 | 27 (6.1) | 2歳 | 28 (6.3) |
| 家族形態 | | 3歳 | 58 (13.1) |
| 核家族 | 363 (82.1) | 4歳 | 89 (20.1) |
| 大家族 | 27 (6.1) | 5歳 | 214 (48.4) |
| 母子 | 2 (4.8) | 無回答 | 27 (6.1) |
| 祖父母と母子 | 5 (1.1) | 出生順位 | |
| 無回答 | 26 (5.9) | 第1子 | 230 (52.0) |
| 主な家計管理者 | | 第2子 | 130 (29.4) |
| 父親 | 55 (13.0) | 第3子 | 46 (10.4) |
| 母親 | 337 (76.0) | 第4子 | 9 (2.0) |
| 父母 | 17 (4.0) | 第5子 | 1 (0.2) |
| 祖父・祖母など | 6 (1.0) | 無回答 | 26 (5.9) |
| 無回答 | 26 (6.0) | 就園状況 | |
| | | 未就園 | 42 (9.5) |
| | | 保育所 | 185 (41.9) |
| | | 幼稚園 | 213 (48.2) |
| | | 無回答 | 2 (0.5) |

内容構成においても4因子の母親役割を仮定していたため、主因子法・プロマックス回転により4因子で検討した。続いて、十分な因子負荷量 ($\geq |.38|$) を示さなかった13項目を除外し、再度、主因子法・プロマックス回転により因子分析を行った。分析結果を表2に示す。なお、以上の4因子の全分散を説明する割合は50.2%であった。

第I因子17項目では、「子どもの思いを十分に受け止める（交流）」や「しつけ場面では、子どもの視点に立って説明する（社会化）」など、「交流」と「社会化」の項目が混在していた。これらは子どもの気持ちを受容しながらも子どもの発達を視野に入れたかわり方の項目を含んでいたことから「子どもの発達を促すかわり」と命名した。

第II因子11項目では、「入浴や歯磨きなど、できるところは見守り、発達に合わせて手伝う（世話）」や「子どもが一人で食事が食べられるように、発達に合わせて

表2 子育て期母親役割尺度：因子分析（主因子法・プロマックス回転）

| 因子および項目：35項目 | | 因子負荷量 | | | |
|--------------|--|-------|----|------|------|
| | | I | II | III | IV |
| 因子 I | 「子どもの発達を促すかわり」：17項目 | | | | |
| 社会化24 | 子どもの行動に対し、長い目で見守る | 0.85 | | | |
| 社会化20 | 子どもが悪いことをした時、感情的にならないよう気をつける | 0.75 | | | |
| 交流33 | 子どもの気分が落ち着かないと思った時は、気分転換を図る | 0.73 | | | |
| 交流27 | 子どもの思いを十分に受け止める | 0.72 | | | |
| 交流34 | 子どもの思いに寄り添ったり、共感したりする | 0.72 | | | |
| 交流32 | いつも笑顔で子どもを見守り、子どもが安心して過ごせる環境をつくる | 0.71 | | | |
| 交流36 | 子どもとかかわる時は、冷静な態度を心がける | 0.71 | | | |
| 交流31 | 子どもがイライラしたり、怒っていると思った時は落ち着くまで見守る | 0.70 | | | |
| 社会化21 | しつけ場面では、子どもの視点に立って説明する | 0.69 | | | |
| 社会化25 | しつけも教育もとにかく子どもに目を向ける | 0.67 | | | |
| 社会化23 | 悪い面ばかりに目を向けず、良い面をしっかりとほめて伸ばしていく | 0.64 | | | |
| 交流28 | 子どもが不安そうだなと思った時は、子どもが落ち着くまで抱きしめる | 0.61 | | | |
| 社会化19 | 子どもの自主性を育むよう、子どものしたい気持ちを大切にす | 0.58 | | | |
| 社会化22 | 親が子どものお手本となるような行動を心がける | 0.43 | | | |
| 社会化17 | 子どもの発達に応じた教育をする | 0.43 | | | |
| 交流29 | 子どもといっしょに遊ぶ時は、いっしょに楽しむ | 0.41 | | | |
| 交流30 | 子どもが泣いている時、子どもの話を聞き、いっしょに理由を考えたり、どうしたらよいかを考えたりする | 0.39 | | | |
| 因子 II | 「基本的生活習慣の確立に向けての援助」：11項目 | | | | |
| 世話41 | 入浴や歯磨きなど、できるところは見守り、発達に合わせて手伝う | 0.93 | | | |
| 世話42 | 子どもが一人で食事が食べられるように、発達に合わせて手助けをする | 0.85 | | | |
| 世話40 | 子どもが一人で着替えができるように、発達に合わせて手助けをする | 0.84 | | | |
| 世話43 | 入浴や歯みがきなど、きれいにすることの気持ちよさを楽しく伝える | 0.68 | | | |
| 世話47 | 子どもに食事をする時のマナーを教える | 0.58 | | | |
| 世話48 | 子どもの発達に合わせて、排泄の手助けをする | 0.56 | | | |
| 世話44 | 食べ物の好き嫌いがなくなるよう、調理方法を工夫したり、料理をアレンジしたりする | 0.55 | | | |
| 世話38 | 食事は子どもが楽しく、おいしく食べられるよう工夫する | 0.55 | | | |
| 世話37 | 身の回りの自立ができるよう、子どもの発達状況に合わせて手助けをする | 0.51 | | | |
| 世話39 | 子どもの健やかな発育を考えて、栄養のバランスのとれた食事をつくる | 0.46 | | | |
| 世話45 | 健康のために生活リズムを整える | 0.38 | | | |
| 因子 III | 「社会生活に向けての教育」：4項目 | | | | |
| 社会化16 | 子どもが他の人に対して良いことや悪いことをした時、相手の気持ちを伝え、思いやりや共感する気持ちを育む | | | 0.81 | |
| 社会化15 | 子どもが社会に出て恥ずかしい思いをしないよう、ルールや礼儀、身だしなみなどを教える | | | 0.79 | |
| 社会化18 | 他人を傷つけたり、命にかかわる危険なことをしないよう教える | | | 0.69 | |
| 教育費 7 | 子どもにお金の大切さを教える | | | 0.40 | |
| 因子 IV | 「子育てや教育に関する費用の管理」：3項目 | | | | |
| 教育費 2 | 子どもの生活費や教育費のために、節約を心がけている | | | | 0.88 |
| 教育費 3 | 子どもの生活費や教育費のために、他の生活費をやりくりしている | | | | 0.74 |
| 教育費10 | 子どものために親のぜいたくは控える | | | | 0.54 |

て手助けをする(世話)」など基本的な生活習慣の自立の内容に向けた援助の項目が含まれていたことから「基本的な生活習慣の確立に向けての援助」と命名した。

第Ⅲ因子4項目では「子どもが他の人に対して良いことや悪いことをした時、相手の気持ちを伝え、思いやりや共感する気持ちを育む(社会化)」や「子どもにお金の大切さを教える(教育費)」など、社会のルールや他者への思いやり、そしてお金の大切さなど社会生活に適応していけるような教育に関する項目が含まれていたことから「社会生活に向けての教育」と命名した。

第Ⅳ因子3項目では「子どもの生活費や教育費のために、節約を心がけている(教育費)」や「子どものために親のぜいたくは控える(教育費)」など子どもに関する費用の管理の項目を含んでいることから「子育てや教育に関する費用の管理」と命名した。

(2) 子育て期母親役割下位尺度間の関連

「子育て期母親役割尺度」の因子間の関連から尺度全体の構造を確認するために、それぞれの下位尺度合計得点間でピアソンの相関係数を求めた。その結果、「子どもの発達を促すかわり」、「基本的な生活習慣の確立に向けての援助」、「社会生活に向けての教育」の間ではそれぞれ比較強い正の相関が、「子育てや教育に関する費用の管理」と他の3因子間ではそれぞれ弱い正の相関が確認された(表3)。このことから、これらの各母親役割は独立して遂行されるのではなく、相互に関連し合っていることが示された。

(3) 下位尺度項目の信頼性の検討

子育て期母親役割尺度それぞれの下位尺度のCronbachの α 係数を求めたところ、第Ⅰ因子「子どもの

発達を促すかわり」では $\alpha = .934$ 、第Ⅱ因子「基本的な生活習慣の確立に向けての援助」では $\alpha = .905$ 、第Ⅲ因子「社会生活に向けての教育」では $\alpha = .783$ 、第Ⅳ因子「子育てや教育に関する費用の管理」では $\alpha = .770$ と十分な値を示し、信頼性が確認された。また、35項目全体のCronbachの α 係数は $\alpha = .949$ であった。全体を1つの尺度として活用することについても信頼性が確認された。

(4) 下位尺度項目の妥当性の検討

子育て期母親役割尺度の妥当性を検討するために、土肥ら⁷⁾の母親役割達成感尺度との間で相関関係を検討した。その結果、「子どもの発達を促すかわり($r = .629, p < .01$)」、「基本的な生活習慣の確立に向けての援助($r = .561, p < .01$)」、「社会生活に向けての教育($r = .451, p < .01$)」の間には有意な正の相関が、「子育てや教育に関する費用の管理($r = .267, p < .01$)」との間には有意であったが弱い正の相関が確認された。また、35項目全体の子育て期母親役割尺度と母親役割達成感尺度⁷⁾との間には有意な正の相関($r = .658, p < .01$)が確認された(表4)。

IV. 考 察

本研究では、「子育てや教育に関する費用の管理」、「社会化」、「交流」、「世話」という4つの構造を想定して子育て期母親役割尺度を作成した。因子分析により本尺度の因子構造を確認し、次いで信頼性を検証した。また、子育て期の母親の心理的な発達との関連の深い母親役割達成感尺度⁷⁾との関連により、妥当性を検証した。以下、主な点について考察する。

1. 子育て期母親役割尺度の因子構造と信頼性

因子分析の結果、子育て期の母親において「子どもの発達を促すかわり」、「基本的な生活習慣の確立に向けての援助」、「社会生活に向けての教育」、「子育てや教育に関する費用の管理」の4因子が確認され、各項目の因子負荷量も十分な値を示していた。また、4つの尺度のCronbachの α 係数はいずれも高い値を示し

表3 子育て期母親役割下位尺度間の相関 (n=442)

| | 第Ⅰ因子 | 第Ⅱ因子 | 第Ⅲ因子 | 第Ⅳ因子 |
|------|-------|-------|-------|------|
| 第Ⅰ因子 | | | | |
| 第Ⅱ因子 | .642* | | | |
| 第Ⅲ因子 | .553* | .611* | | |
| 第Ⅳ因子 | .373* | .319* | .342* | |

* $p < .01$

表4 各因子合計得点と母親役割達成感合計得点の相関

| | 第Ⅰ因子 | 第Ⅱ因子 | 第Ⅲ因子 | 第Ⅳ因子 | 子育て期母親役割尺度全体 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 母親役割達成感尺度 | .629* | .561* | .451* | .267* | .658* |

* $p < .01$

ていたことから、子育て期母親役割の各下位尺度および項目全体の内的整合性は支持され、尺度の信頼性が確認された。この結果から、質的に行った予備調査¹⁸⁾をもとに作成した尺度が、量的検討によっても検証されたと考えられた。

特に、本研究では、船橋¹⁴⁾の提唱した親役割のうち、①扶養について、母親の就業の有無にかかわらず共通している「子育てや教育に関する費用の管理」という間接的な場面を設定した。家計の管理において本研究の調査対象者の76%で母親が主たる役割を担っており、神谷¹⁷⁾の結果と一致するものであった。従来は扶養という概念でひとくりにされ、父親役割のように思われがちであった、「子育てや教育に関する費用の管理」についても、母親役割として捉えられることが示された。

2. 子育て期母親役割尺度の妥当性

子育て期母親役割尺度における各下位尺度と土肥ら⁷⁾の母親役割達成感尺度との間に有意な相関が認められ、本研究の子育て期母親役割尺度の質問項目の妥当性が確認された。

また、この結果は、本調査で確認された「子どもの発達を促すかわり」、「基本的生活習慣の確立に向けての援助」、「社会生活に向けての教育」等の母親役割の遂行を促進する介入プログラムの提供が、母子や母親自身に影響し、母親役割達成感を高める可能性を示唆している。更には、このような母親の満足の高まりが、母親自身の心理的な発達にもつながるのではないかと推測した。これらの点については、今後の課題としていきたい。

3. 子育て期母親役割下位尺度間の関連

子育て期母親役割尺度の各下位尺度間に有意な相関が認められ、それぞれの役割は互いに関連し合うことが明らかとなった。また、下位尺度35項目全体の信頼性も高く、全体として1つの尺度として運用できることも確認された。経済的ゆとり感の低い母親ほど、子育てへの関心が乏しく、不満、不安を高め、子どもを叱ったり、叩いたりする傾向のあることが示されている¹⁹⁾。わが国の経済の長期停滞を鑑みると、経済的余裕も子育て上重要な要件であると思われる。このことから、母親役割とは「子育てや教育に関する費用の管理」も含めた子どもの養育であることが考えられ、本

研究の子育て期母親役割尺度は全体として捉えることが可能と思われた。

4. 今後の課題

本研究の調査は、A県という限られた地域で行われたものであり、また、調査対象者の子どもで年齢は3～5歳児の割合が多かった。そのため、本研究の結果は乳幼児期の子どもをもつ母親すべてに適用可能とはいえない。3歳未満の子どもをもつ母親の対象者を増やし、更に検討を続けていく必要があると考えられた。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 寺菌さおり. 子育て期の母親役割を支えることの意味と今後の課題. 倉敷市立短期大学研究紀要 2013; 57: 69-76.
- 2) 西田裕紀子. 成人女性の多様なライフスタイルと心理的 well-being に関する研究. 教育心理学研究 2000; 48: 433-443.
- 3) 寺菌さおり. 子育てによる親役割達成感と親の心理的な発達との関連性. 小児保健研究 2010; 69: 47-52.
- 4) 小林康江. 産後1ヵ月の母親が「できる」と思える子育ての体験. 母性衛生 2006; 47: 117-124.
- 5) 前原邦江, 森 恵美. 産褥期における母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度の開発—信頼性・妥当性の検討—. 千葉大学看護学部紀要 2005; 27: 9-18.
- 6) 金 娟鏡, 福富 護. 子育て期の女性のアイデンティティの確立に関する日韓比較—妻役割, 母親役割, 職業を中心にみた様相—. 東京学芸大学紀要1部門 2005; 56: 103-111.
- 7) 土肥伊都子, 広沢俊宗, 田中國夫. 多重な役割従事に関する研究—役割従事タイプ, 達成感と男性性・女性性の効果—. 社会心理学研究 1990; 5: 137-145.
- 8) 金 娟鏡. 母親役割行動と母親役割満足感—幼児をもつ母親を対象にした日韓比較—. 学校教育学研究論集 2007; 15: 1-14.
- 9) 桑名佳代子, 細川 徹. 1歳6か月児をもつ親の育児ストレス (1) 母親の育児ストレスと関連要因. 東北大学大学院教育学研究科年報 2007; 56: 247-263.

- 10) 前原邦江. 産褥期の母親役割過程—母子相互作用の経験を通して母親役割の自信を獲得していくプロセス. 日本母性看護学会 2005; 5: 31-37.
- 11) 中添和代, 白石裕子, 船越和代. 3歳児をもつ母親の子育てに関する意識調査—看護の視点から育児支援を考える—. 香川県立医療短期大学紀要 1999; 1: 87-94.
- 12) 大日向雅美. 母性の研究. 東京: 川島書店, 1988: 135-169.
- 13) 小坂千秋. 幼児を持つ母親の親役割達成感を規定する要因—就労形態からの検討—. 発達研究 2004; 18: 73-87.
- 14) 船橋恵子. 現代父親役割の比較社会的検討. 黒柳晴夫, 山本正和, 若尾祐司編. 父親と家族—父性を問う—. 東京: 早稲田大学出版部, 1998: 136-168.
- 15) 大野祥子, 柏木恵子. 親としての男性—父にはなるが, 父はしない?. 柏木恵子, 高橋恵子編. 日本の男性の心理学 もう1つのジェンダー問題. 東京: 有斐閣, 2008: 153-173.
- 16) 総務省統計局. <http://www.stat.go.jp/data/roudou/tsushin/pdf/no11.pdf> (2014年7月29日閲覧)
- 17) 神谷哲司. 育児期夫婦における家計の収入管理に関する夫婦間相互調整. 東北大学大学院教育学研究科『研究年報』 2010; 58: 135-151.
- 18) 寺蘭さおり, 山口桂子. 「母親役割」尺度作成のための予備調査—自由記述式質問紙調査から—. 倉敷市立短期大学研究紀要 2012; 56: 33-40.

- 19) 山本理絵, 神田直子. 家庭の経済的ゆとり感と育児不安・育児困難との関連—幼児の母親への質問紙調査の分析より—. 小児保健研究 2008; 67: 63-71.

[Summary]

The purpose of this research was to develop new scale to evaluate mothers' roles in the childcare period, and to investigate its reliability and validity. As a result of factor analysis, four factors were extracted; Factor 1, "Relations that encourage children's development", (17 items, Cronbach's $\alpha = .934$); Factor 2, "Help in establishing basic daily habits", (11 items, Cronbach's $\alpha = .905$); Factor 3, "Education for social life", (4 items, Cronbach's $\alpha = .783$); and Factor 4, "Management of childcare and education expense", (3 items, Cronbach's $\alpha = .770$). Internal consistency of the 35 items was confirmed with an overall Cronbach's α coefficient of .949. The validity of the scale was further supported by a positive correlation with the Mothers' Role Attainment scale. This scale includes not only direct involvement such as childcare and the mother-child relationship but also indirect involvement such as the management of childcare expenses. As a result, this scale is considered to be useful in the evaluation of the total quality of mothers' roles.

[Key words]

mothers' roles, childcare period, management of childcare expense, reliability and validity,